



学校での学びはなぜ大切か？



「携帯電話」が日本で初めて使われたのは、1970年に大阪で開催された「万国博覧会」の会場でした。このときは実験的な使用で、実際にサービスが始まったのは、1979年「自動車電話」としてでした。当時の電話は、大きくて人が持ち歩けるものではありませんでした。その電話を今のみなさんが見ると、化石のように見えることでしょう。その後、ショルダーバック型の携帯電話になり持ち運びが可能になりました。そして、手のひらサイズの携帯電話になり、インターネットが使える携帯電話に、カメラ付きの携帯電話へと進化していきました。大阪万博から40年後には、スマートフォンが登場し、現在ではスマホ1台あれば、ほぼ何でもできるまでになりました。

しかし、高度に進化した現在のスマートフォンも今から20年後の人たちが見ると、きっと化石のように見えることでしょう。

このように、電話一つとっても将来の変化を予測することが困難な時代です。だからこそ、これからは「何を知っているか」と言った知識だけを身に付けても十分とは言えません。「知っていること・できることをどう使うか」も重要になってきます。そのためには、解決が難しい課題について、新たな知識技能を習得していくことはもとより、学んだ知識技能を活用して、考えたり、判断したり、表現したりすることが重要になります。また、色々な立場の人と協働して課題を解決する力を身に付けていくことも必要です。

生徒のみなさんは現在、学校での色々な学習を通して、そうした、将来に必要な力の基礎を身に付けているのです。だから、学校での様々な学びを本当に大切にしたいと思います。

